

“美しい国”の商業・アート・景観

SEQUEL

「アート作品はラディカルに自律している」と、現代哲学の“ロックスター”は云った。アートの成立には作る魂を揺らす創造力 (creativity) だけでなく、できあがった作品に感じる心に湧出する想像力 (imagination) が不可欠だ。だから真のアートは、絶対にその都度、contingentである。Chaosの中に、Lifeが発芽し、蠢く。

また、民藝の創始者は、「私のない『井戸』と私を残す『楽』」とを混同して見てはいけない。それに前者の美は生まれたもので、後者は造ったものである」と喝破した。「無有好醜」こそ、美の究極であり、それは日用雑器を作る職人による無銘・無作為の手仕事に現れるという。

するとアートは、日常に在在してこそ、その意義を全うすることができる、ということになる。

普遍的商品経済のしくみは無限の利潤追求を運動原理とする。それは現に見るとおり、社会的な一大格差と地球規模の環境破壊を推し進める結果となった。社会経済的な再配分は、「自由」「機会平等」「自己責任」の名のもとに、機能不全に陥った。大規模集中の、国家的レベルの対策は後手に回りつづける。

そこで経済の「脱成長」が説かれるようになる。小規模の、人々の手によるコミュニティ・コモنزの経済の意義が再認識されるようになる。新たな価値意識の醸成が必要になる。日常的なアートに注目が集まるようになる。美術館の外の、アートのかかわりが、アートの創造が、人々の生きる喜びを生み出す。景観をつくる人々が生まれる。

後期の景観セミナーは前期に引き続き、「美しい国の商業・アート・景観」を総合テーマにしました。三名の話題提供者の方々とともに、秋から冬にかけての夜のひと時を、このテーマをめぐって、語り合いませんか？

景観研究センター所長 山下三平



photo by Tadashi TAKAO



photo by Takuji HAMADA



photo by Takeru SAKAI

九州産業大学景観研究センター 景観セミナー/レクチャーシリーズ 2023 後期

テーマ：“美しい国”の商業・アート・景観 SEQUEL

■ 11月10日(金) 18:00-19:30

作家の仕事と職人の仕事—陶芸産地における場の風景の継承から—
濱田 琢司 (関西学院大学 文学部 教授)

<https://ksu-keikanseminar2023s1.peatix.com/>

■ 12月1日(金) 18:00-19:30

福岡の成長とまちづくりの課題

坂井 猛 (九州大学 本部キャンパス計画室・大学院人間環境学府・工学部建築学科 教授)

<https://ksu-keikanseminar2023s2.peatix.com/>

■ 12月15日(金) 18:00-19:30

地域産業振興に資する景観づくり—長崎市景観専門監の取り組み—

高尾 忠志 (一般社団法人地域力創造デザインセンター 代表理事)

<https://ksu-keikanseminar2023s3.peatix.com/>

会場：対面 九州産業大学 23号館 4階 景観研究センター 景観ライブラリー
Online Zoom ミーティング *各回とも Peatix にてお申し込みください

参加費：無料